

第366回放送番組審議会

1 日 時 2016年6月21日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者7名、欠席者1名 布施勉副委員長

出席委員; 山田一廣委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、二宮務委員、伊藤有壱委員、五大路子委員、吉川知恵子委員
tvk;中村社長、押川取締役、熊谷コンテンツ局長、古矢プロデューサー、玉村編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①6月のタイムテーブル

②6～7月の特番一覧表

(2)視聴合評

体験共有型地域潜入情報番組「猫のひたいほどワイド」

2016年6月14日(火)午後0時～1時30分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2016年5月16日(月)～2016年6月17日(金)

・第365回(5月)放送番組審議会の議事報告

(「猫のひたいほどワイド」2016年6月7日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2016年7月5日(火)「猫のひたいほどワイド」(12:00～13:30)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

玉村編成部長 それでは、定刻になりましたので、山田先生お願いします。白石先生が出欠のご連絡を頂いていないのですが、もしかするとご欠席になられるかもしれません。

山田委員長 それでは、始めさせていただきます。私事ですけれども、今月の初めに被災地の熊本へちよつと行ってきました。片道1,200キロを20時間かけて車で現地に入りまして、帰りも1,200キロを帰ってきたんですが。阪神淡路、それから東日本と何度も現場に行ったんですが、今回ほどテレビを見ている画像と現実に差の開きがあることを、ものすごく強く感じました。阿蘇山は大きながけ崩れがあつて、皆さんテレビや新聞でご存知かと思えますけれども、実際に行ってみますと、ものすごいえぐられたような感じで、「大きな揺れがあつたんだな」ということで、下の地面などもほとんど割れてしまっているというので。それから益城町というところにも入ったんですが、ほとんど木造家屋は全半壊です。それで取材をいろいろな人からしたんですけれども、「いっそのこと、津波で全部持っていかれた方がすっきりした」というような、非常に心に残るというか、非常に辛いような言葉もありました。それで今日は私事ですけれども、皆さんのお手元に、こういう冊子とチラシですね。後ほど五大さんの方も「横浜ローザ」がありますので、五大さんにこれの宣伝をしていただいた後、私の方からちよつとお話をさせていただきます。これは最後に話をさせていただきます。それでは第366回の番組審議委員会を始めさせていただきます。では、中村社長の方からお願いいたします。

中村社長 はい。どうもお忙しい中、ありがとうございます。明日いよいよ参院選が公示ということで。あさってはイギリスの EU 離脱か残留かという国民投票が、あちらの方で行われるということで、そこら辺がひよつとしたら7月10日にいくらか影響が出るのかなと思います。それは別としましても、何といたっても今度の参院

選、選挙権が18歳ということが一番大きな変化でございます。そこら辺が、これからの日本の政治にどういふふうに影響してくるのかなというところが、一番注目される所かなと思います。ということで、7月10日に私どもも開票速報をやります。後ほど玉村からも特番のご案内をいたしますが、今回はその18歳ということで、「参院選スペシャル 僕らの選挙」ということで、わりと若い18歳・19歳の方々にとっての政治ということをテーマに、開票速報をお伝えしていこうと考えています。これからアベノミクスがどうなるかも含めて、参院選ですから総選挙と比べると、みたいなところもありますが、結構参院選は過去にいろいろ動いております。そこら辺も是非、ご注目をいただければと思います。本日もよろしくご審議のほど、お願いいたします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは本日の議題に沿って進めてまいりたいと思います。まず放送番組について。これはお手元の6月のタイムテーブル、あるいは6月7月の特番一覧表を参照していただきながら、事務局の方からお願いいたします。

玉村編成部長

よろしくお願ひいたします。6月のタイムテーブルはこちら。先月ご批評いただきました「Ride & Life」というバイクの番組と、裏へ行くと「かながわ旬菜ナビ」、これを表紙にしております。内容はこれまでのレギュラー番組を詳しく解説させていただいておりますのと、次の次のページにつきましては、先月お話をいたしました、「川崎競馬中継」、それから「プロ野球中継」、わりあい年齢の高い方々にご好評いただいております時代劇の番組。それから SV2の見方を、少しスペースを割きまして解説しております。共同制作で、ドラマおよび映画がこの間公開になりました。「白鳥麗子でございます！」という映画の宣伝等々をこちらに載せております。特別番組につきましては、6月7月で用意しております。6月以降「プロ野球中継」「横浜市会ダイジェスト」「ザよ

こはまパレード」の再放送。「川崎競馬中継」などの特別番組が並んでおります。7月に入りましてから、中村から話もありましたように、参議院選挙がありますので、まず「政見放送」が2日から4日、6日、7日に入っております。裏にいきまして7月10日の「僕らの選挙」、こちらが19時55分から25時、よる1時までということで考えております。場合によっては、延長の可能性がございます。途中30分中断がありますが、神奈川選挙区の当確が出るまでということで、長い放送時間を考えております。今回はスタジオに18歳19歳の新たな有権者を迎えて、いくつかのテーマについて話し合うという形の、新しい演出の方法を、今回トライアルするということでございます。7月になりますと、高校野球の県大会がありまして、7月10日から30日の土曜日までというのがレギュラーの大会期間でございます。それぞれの生中継は例年通り開会式1回戦から決勝戦まで毎日行います。それから欄外にございますように、高校野球のダイジェストをやりますニュース、これも7月10日から30日まで。今回は放送時間を昨年と変えまして、夜9時45分からの30分。土日につきましては、10時半からの30分ということです。また7月10日のみ、参院選特番のため放送時間が少し変わって、21時からの30分というふうに変えてございます。都市対抗野球というものが例年開催されていまして、これもダイジェストで30分の番組を、これは7月15日から12日間、基本的にすべての試合をダイジェストでお送りします。簡単ですが、以上です。

山田委員長 はい、ありがとうございました。事務局から6月7月の番組について説明がありましたが、これについて何かご意見ご質問等がございましたら。

林委員 いいですか？

山田委員長 どうぞ。

林委員 10日の特番ですけど、18歳19歳の、19歳というと高校生じゃないと思うけ

ど、いらっしゃるかもしれないけど、これ、どういったことで選ばれたのかということ、コメンテーターはどなたがみえるんですか。

玉村編成部長 はい。今、手元に詳しい資料はございませんが、ゲストの若者は6~7人で、大学生、フリーターの方もいたり、働いている方もいて、スクール形式で若者たちに対して、5つのテーマに関するそれぞれの専門家、大学の先生とかがお話をして、それに関して意見を取り交わしていくというような演出でやっていくと聞いております。

林委員 高校生はいらっしゃるの？

玉村編成部長 高校生はいないです。

林委員 そうですか。コメンテーターはどなたですか。まだ決まっていないの。

中村社長 いえ、決まっています。結構メディアによく出ていらっしゃる、東工大の社会学の教授かと。まだ若手のホープ。

林委員 前に北大にいらっしゃった方かな。

玉村編成部長 名前は。

林委員 東工大の准教授でいらっしゃった方であれば、結構いろいろメディアに出ていらっしゃいますけど。中島さんという方かな、違うかな。ま、いいです。わかりました。

山田委員長 他には。はい、伊藤さんどうぞ

伊藤委員 7月2日からの「参院選の政権経歴放送」についてですが、これはテレビ神奈川さんに限らずですが、テレビという放送を見られない人で、今のインターネット時代で、例えば携帯などのインターネットで見られるような、そういう気配とかはあるのでしょうか。

玉村編成部長 政見放送に関しましては、私ども民間放送連盟および総務省の指示通りに放送するだけですので、インターネット上どういうふうなということについては

聞き及んでおりません。

伊藤委員 これは、等しく放送関係すべてがそのルールに則って。

玉村編成部長 そうですね。各都道府県の当該のテレビ局、ラジオ局。神奈川県でいうと NHK と私ども、あとはラジオはラジオ日本と NHK ということで、それぞれが収録をしてそれをそのまま放送するというふうに定められています。

伊藤委員 それが、インターネットに徐々にシフトしていくみたいな気配も、現状はないということですか。

中村社長 インターネットはそれぞれの選挙運動の中で、いわゆるインターネットで選挙運動が解禁になっていますから、そちらの方でそれぞれがおやりになるということですね。実は今度の参院選から、政見放送も総選挙と同じように政党が持ち込めないかということなど、いくつか議論はされたんですが、結局時間切れで、今年の参院選については従前どおり、神奈川県でいうと NHK の横浜放送局と私どもでそれぞれ政見放送を収録して、それぞれ放送するというように、結果としてなっております。

山田委員長 他にいかがでしょうか。

玉村編成部長 林先生、先ほどの質問につきまして回答をいたします。コメンテーターは東京工業大学の西田亮介先生です。

林委員 そうですか。

玉村編成部長 司会進行をアナウンサーの三崎が行います。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、2番目の視聴合評の方に移りたいと思います。90分という長い番組で、いろいろ皆さんご意見があるかと思しますので。

土屋 長尺の番組になっておりますので、冒頭からおよそ15分、2つぐらいのコーナーを紹介しています。

視 聴 合 評

山田委員長 ありがとうございます。1時間30分の長い番組の中で、いろいろな話題が組み込まれていますので、それぞれ興味がある話題があるかと思います。委員の皆さんからご意見等を頂戴する前に、番組の制作をされました古矢さん、この番組の概要等をちょっと簡単に結構ですから、ご紹介いただけますか。

古矢プロデューサー はい。この「猫のひたいほどワイド」という番組を担当しているプロデューサーの古矢と申します。よろしく申し上げます。この4月からスタートしたお昼の情報番組が、この「猫のひたいほどワイド」という番組で、会社の方針として「話題になる番組」ということがありまして、出演者を全員男性の俳優という、実験的なキャスティングでやっている番組です。MC の4人は日替わりの俳優になりまして、大体30代前半の方です。お昼の視聴者層は主婦の方が多いということで、既に主婦の方のファンが付いている方、4名をMC に起用しまして、日替わりのリポーター3人、計12人の、さらに若い20代前半の、若手の俳優さんをリポーターとして起用しております。番組の内容としては「情報の地産地消」ということで、番組のサポーターというものを SNS、LINE を中心に組織しまして、視聴者から寄せられた身近な情報、「こういった気になるものがあるから取材してほしい」とか、情報ではなく、たとえば「引っ越しがあるから手伝ってほしい」とか、そんな身近な視聴者の要望にも答えていくことをやっております。情報の地産地消というところで、ローカル局の情報番組ですので、タイトルにもあるように「猫のひたい」とありますが、より狭いエリアにリポーターが潜入して、その情報を広くワイドに視聴者の方にお届けするということを目指して「猫のひたいほどワイド」という番組タイトルにしています。簡単ではありますが、概要は以上になります。

山田委員長 はい、ありがとうございます。大体平日の12時から1時30分というと、家庭の

主婦が大体対象ですよ。こういった番組を見るのは。特にそれは意識しないで、とにかく家庭の主婦ということは念頭に置かないで、もう情報は盛りだくさんに提供しようという。

古矢プロデューサー いえ、基本的にはテレビの前の視聴者の方は、主婦の方が多いので、そこはもちろん念頭に置きつつも、こちらからその方に、たとえば主婦が興味のあるグルメとか美容とかそこら辺をおさえつつも、違う、「地域にこういった情報があるんですよ」ということを、番組から発信する形でお届けすることを心がけています。

山田委員長 わかりました。主婦を対象という色合いからちょっと外れていたような気がしたものですから。後は、それでは委員の皆さんから意見を頂戴したいと思います。まず五大さんからお願いします。

五大委員 今日は、私ちょっと早く来すぎたんで、生放送の会場でお茶を飲んでいたんです。ずっといたんで。質問してもいいですか？会場のお客さんは小川さんという人のファンの方ですか？

古矢プロデューサー 小川さん？

五大委員 メインの方は？

古矢プロデューサー 小林。小林のファンの方もおりますし、後はリポーターの、今日は和田君、大矢君、山形君の3名ですが、彼らのファンの方も、毎日お忙しいお昼の時間帯ですが、わざわざ来ていただくという方も。

五大委員 なんか、その、悪く言っているんじゃないくて、会場全体がひとつになっていて、ファンなんですよ。コンサートの時のファンの感じがしました。彼らのファンの人が会場に行って、会場と一緒に笑ったり楽しんだりしていて、「楽しいんだな」と見ていたんですが、多分。小林さんという人はどういう方なんですか？

古矢プロデューサー 役者をやっているんですけど、今日の番組でも紹介したんですが、今週末公開の映画で「日本で一番悪い奴ら」という作品に出ていたり、後はいろんな舞台であったりドラマに出ている俳優さんです。

五大委員 多分、主婦層というのは若い主婦層にターゲットを絞られているんですか？

古矢プロデューサー そういうわけでもないんですが、日替わりの MC が4人おりますので、彼らの曜日ごとの個性、ついているファンの方も違うところがありまして、違うMCを。今日でいうと小林君はちょっとワイルドな感じの俳優さんですが、いわゆる情報番組のMC的な清潔感のある方もいますし、もっと元気な方もいますし、それぞれの個性を月・火・水・木で出すように、違う方はキャスティングしています。今日はワイルドなタイプかなと。

五大委員 今日はワイルドなんですね。ワイルドにちょっと入れなかったんですけど。一人年齢を感じていました。私はなんて年齢なんだろう、みんなの枠に入れないなと思っていたんですが。現場にいますと、みんなが一体化して盛り上がっているのはすごくわかったんですが、それが果たして、画面を通じて一般視聴者の台所に行ったときにどうだったのかなというのが、はてなマークを感じました。ただ20代の主婦もいるし、30代の主婦もいるので、その人たちには同じようなレベルで受けられるんだろうなと思いました。ちょっと言うと団塊の世代のおばさんは、置いてきぼりを食っちゃうかなと思いましたけど。ただ、ターゲットを若くしていくのはありなんだなと思って見ていました。ただ、どうしても俳優なので、言葉が気になりまして。言葉が早口で、別にアナウンサーのようにしなくてもいいんですが、伝えるということは大事なことなので、きちんと伝えるという、最低限のところは、もうちょっと言葉をちゃんと伝えてほしいなと思うところがありました。「おいしい」というのもいろいろな表現があるんですが、「うめえ」もあるし、いろいろあっていいと思うんですが、普通の表現というか。

どうしても言葉が気になりました。つまり何を伝えるか。より狭いところを広く伝えるということが、「猫のひたいほどワイド」のメインだと思いますけれども、本当に伝えるということが、一部の人だけなのか、もうちょっと伝えたいのか。その辺のところを、今後はもうちょっと検討されてもいいんじゃないかな、ということを感じました。はい。

山田委員長

委員からいろいろ質問や注文が出るとありますが、それはひとつひとつ答えていただくのではなく、最後にまとめてお話していただければと思います。続きまして、林さんお願いいたします。

林委員

お昼の帯なので、明るくて元気なのはいいと思うんですが、ちょっと騒々しすぎる感じがしましたね。スタジオもリポーターも。言葉がちょっと汚いんじゃないかという気がしました。あまり「やべえ」とか「あめえ」とか。それは彼の個性だと言えはその通りなんです、おそらくお三方ともそういう物言いをするんじゃないかと。やはり、ターゲットの20代30代の方はそういうもんだというふうにいるとしたら、ちょっと違うんじゃないかなと、私は思うんですね。恐らく、主婦層は逃げるんじゃないかなという気がしないでもないです。その辺が不安なんです。今日は、敢えて注文だけさせてもらいますけれども、もうちょっと落ち着いて見たい、という雰囲気を出した方がいいんじゃないかなと。あまりスタジオだけで盛り上がっているとしらけちゃうんですね、見る方は。そんな感じが特にしました。それから番組全体が若い方ですから、どこかで締めの方が一人いないといけないと思うんですよ。それを本当は、30代の今日だったら進行役の方がやるんでしょうけれども、日替わりだから難しいとなれば、岡村さんっていうアナウンサーですか、その方がやるべきなんだけど、一緒になって笑ったりされているようでは、ちょっとどうかかなという気がしないでもない。その辺はわかった上でやっていらっしゃるんであったら、再考する必要

があるんじゃないかなと。冒頭の話にもつながってくるんですが、もうちょっと落ち着いた方がいいんじゃないかと。やはり情報番組だから身につく、ためになる、というのがないと。そういう意味ではリポーターの言葉が浅いですよね。「誰でもできるんですよ」とか。陶芸教室では「簡単ですね、是非気軽に訪ねてください」って、これは僕でも言えるわけで。そこへ行って「陶芸教室へ行って、やってみようか」と、ちょっと思わないですね。リポーターが行って作品を作れるのは当たり前で、せっかくそこに教室に何人か見えていたから、そういった方の話を聞いた方がいいかなと。あの若い方が行って、ろくろを回して作れるとは、とてもみんな思わないわけで。それよりも来ている方に話を聞く、所長さんに話を聞く、「陶芸教室の良さはどこにあるんですか？」といった方が、地産地消の情報番組じゃないかという気がしましたね。やはりただにぎやかだということでは、どうかなと。ちょっと注文ばかりで申し訳ないんですが。それからヨーデル同好会ってありましたね。同好会という割にはお一方しかいらっしゃらなくて、あれはどうなんだろうと。あれは番組サポーターの情報で行かれたわけですけど、番組サポーターの方は同好会のメンバーなのか、それとも同好会をご存知の上でやっていらっしゃるのか、その辺をもう少し説明してもらわないと。一人同好会なのかという気さえしないでもない。一生懸命で僕は印象は悪くないんですが、そこも、やはりちょっとリポーターの対応に、ちょっとまだ難があったのかなと。それから番組サポーターのあり方ですよ。どういうことで選んでいらして、番組で募集されていましたけど。どういう世代が多くて。いわゆる属性ですよ、職業であるとか、性別であるとか。そういうことを番組のどこかで、テロップでもいいけれども、出した方がいいんじゃないかなと。ある程度、今2ヶ月ですから、わかってくればテロップを外してもいいかもしれないけれど、まだ番組が始まったばかりだから、それは

必要じゃないかなと思いました。それと、これはなかなか昼間の番組だから男性の方たちや、女性の働いている方はなかなかご覧になれない番組だろうと思います。それは初めからターゲットとしては外しているわけで、若い、とりわけ20代30代の女性、主婦層だと思うんですが、それにして番組構成だとか、レポーターの受け答えをちょっと上げないと、長寿番組にはなりにくいかな、と不安を抱きましたね。で、番組後半はちょっとテンションが落ちたんじゃないかという気がしてね。番組の視聴者プレゼント、あそこはたまたまお三方がいて、一人しかというのがあるかもしれないけれど、その辺のテンションを下げさせないための番組構成上の工夫とか。それをやらないと、半年、1年、3年。前の番組のような「ありがとッ！」は、僕はたまに見ることがありましたが、あれに追いつくまでは、少し工夫が必要かなという気がしました。ちょっと長くて、注文が多くて申し訳ないですけど。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして伊藤さんお願いします。

伊藤委員

はい。別の回というよりは、今日わりとしっかり見たので、その前提で話をします。前回は青葉区の養蜂とか、そういう。潜入レポートというので僕が見たときには、愛甲郡と藤沢と真鶴町ということで、県内を非常にバランスよく広く回っている。そういう設定はいいなと思いました。どうしても横浜に集中しちゃうので、そういうこともなく、多分視聴者からの希望があってそこへ行くという姿勢でいると。今回は愛甲郡の古い箒屋さんとか真鶴の本小松石とか、なかなか地味で渋い素材を、若いお兄ちゃんがわからないながらも、とにかく体当たりで挑戦する。それはいいなと思いました。あと、番組自体のセットとかテロップ全体のカラーコーディネーションがすごくいいなと思いました。グラフィックの下に組むテロップのフレームとか、そういったもの。右の時報下に出るのぞき穴みたいなライブの窓の出方とか、ああいうのも、そつないところはそつ

なく、カラーをしっかりと出すところではセットデザイン的に、いい印象でした。これは、女性たちに好んでいただくという意味での好感もすごくキャッチできると思いますし、そうでない人たちが見ても、「なんでもいいからやっちゃえ」という感じじゃなくて、全体のトーンデザインはよかったなと思います。そういう中で90分って結構長くて、1個1個はそんなに悪い印象はなかったんですよ。要は「お昼の元気」という感じで見えていたので。女性から見れば、レポーターたちがあるときは弟分、あるときはせがれ、あるいは孫っていう目で見ているような、やんちゃな子たちのやんちゃさは、いいと思ったんですが。それに対してやはり長い時間見ていると、だんだん赤・黄色・青の設定が、かなりしっかり色分けされているにもかかわらず、同じものに見えてきちゃうんですね。これは同じ世代の同じ若い、同じ男性の方がやっているということで、どうしてもなっちゃうと思うんですが。ひょっとしたらそこをうまくさばくのが、さっき林さんがおっしゃった、いわゆるメインのパーソナリティみたいな人が、年齢とだけは言い切れませんが、うまくさばく、うまく転がす、うまくつつこむみたいなのところでやってくれたら、まだもう少し若者らしく暴れてもいいし。暴れるというか、今のにぎやかな感じがいいかもしれませんが。たとえば言葉遣いにしてもそういう人が番組の中で「言い過ぎだよ」みたいなことを言うと、うまくおさまったりとか。「お昼の元気」という一言の視点で見えていたので、その、誰か舵取りというか、それがディレクターさんかもしれないんですが、より強い緩急とかリズムとかを練り上げてくれたらいいなと思いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。では続きまして白石さん。

白石委員

私も、男性4人で珍しいなと。まあ、ワイワイガヤガヤとやっているんですが、よくあれで番組が進めるんだなと。みんなそれぞれ言っているんですよ。誰がしゃべっているのかもわからず。でもパツパツと番組は進んでいて、若い

人ならわかるんだなど。私にはワイワイガヤガヤと、ちょっとわかりにくい放送だったなというところがあります。「猫のひたいほどワイド」、蜂蜜、いい取材をしていただいたなど。こんなところにこういうものがあつたのかと。ヨーデルのは、戸塚であれだけの土地を持っている人じゃないのかなと。あずまやみたいなところにホルンを置いていたり。ゴージャスな遊びだなど。それが戸塚の真横にあるんだなどびっくりしました。湘南でも陶芸がありますが、見ても飽きないので良かったです。ただこれはテレビ神奈川なんです、電話は埼玉だ、千葉だ、東京だということから電話がかかってくる。神奈川周辺にも電波が飛んでいるという実態、このように電話がかかってくるんですが、まあ、たまには千葉とか埼玉とか、周辺の県にも行ったらどうかと思いました。今日スタジオに集まっている方々は、結構多いですね。スムーズスムーズっていうまずいのを。なんであんなにまずいものを紹介するのかなど。本当は「おいしい」と言ってもらった方がいいんじゃないかと思うし、需要性が高いのであれば、岡村さんも飲んで顔をしかめていましたが、小林さんも「いや、今回は失敗です」なんて言っていました、失敗のところはやっちゃいけないと思います。やはり「おいしい」「体にいい」というところを出した方がいいのではないかと思います。試食をされていないことの結果が、ああいうところに出たと思います。それから、さくらんぼは佐藤錦、結構高いですよ。よく出したなと思いますね。時期を、的を射ていいプレゼントだったなと思います。なかなかいい商品を出しているなと思ったところです。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして、吉川さんお願いします。

吉川委員

はい。まず最初に猫のイラスト、番組キャラクターですか、あれは非常にかわいいなと思います。こういうのを作らせると、御社はうまいなと思いました。せっかくイラストがあるので、あれをもっと活用したらいいんじゃないかなと。たと

えばレポーターのコスチュームにもそれが入るとか、もっと活用したらいいのに、もったいないなという印象で見えていました。それから全体としての印象は、五大さんもおっしゃっていましたし、林さんもおっしゃっていましたが、掛け合いがつまらないのと、内輪ウケで笑いすぎ。女性アナウンサーの過剰な笑い、甲高い声がうるさいだけで、見ている側がしらけてしまうところがあったなというふうに思います。途中でも、画面を見ながらスタジオトークがあったんですが、オフマイクで平気でコメントしていたりとか。それからプレゼントコーナーで視聴者にインタビューしている最中に、視聴者と掛け合っていたのが、いつの間にか、視聴者そっちのけで話を取り上げてしまって、内輪の盛り上がりで切り替わったり。基本的な掛け合いの技術というか基本が、出演者のスキルとして、もっと高めてもらった方がいいんじゃないかなと思いました。少なくとも出演者の方に、編集後のものを見てもらって、反省会を一度していただいて、自分たちのトークがどれだけかぶっているか、どれだけ視聴者側の印象に映るのかということ、一回ご本人たちにも検証していただけたらいいんじゃないかと思いました。題材としては、何人かの方もお話になっていたように、たとえば大学キャンパスで蜂蜜づくりなんて意外性とか、良かったと思うんですが、でも「なんで大学生が養蜂を始めたの？」というところを聞かずに、いきなりに「サークルの概要は」といって、猫の手も借り隊のレポーターが原稿を棒読みで紹介する。そんなのではなくて、せっかくレポートしているわけですから、ビビッドな大学生の声を拾ってあげたらいいのに、もったいないなと。そういうところも、レポーターの技量なんだなと思いました。彼はビジュアルで言えば、衣装ももうちょっとファッショナブルにしてあげられたらなど。エプロン、スモージースモージーの、明らかに女性もののエプロンと思われるものをアシスタントの人に着せたりとか、もうちょっと猫のイラストを入れた番組

特製オリジナルエプロンを作って、それを視聴者プレゼントにも使うとか、いくらでもやりようはあるのに、なんで中途半端なコスチュームなんだろうな、というのが残念に思いました。スムージースムージーに関しては、白石委員と似ているところとちょっと違うところがあります。飲むまでは味がわからないというところの面白みを活かそうとしている、「飲んでからのお楽しみ」というところはある程度は理解するんですが、ただ、だからといって一生懸命作って、でも味が思うようにいかなかったというのなら理解できるんですけど、いかにも適当に作っていて。白石委員もおっしゃっていたように、好まないとわかっている人のところに大量に持って行って、一口飲ませたらすぐ引き上げてきて。「あ、あの食材は無駄になるんだな」ということが一見してわかるような、物を大切にしていないというような、心が伝わってこない。物を作るからには一生懸命、その食材を大事にしなきゃいけないはずなのに、なんかまずいものを作って終わりみたいな。それではやはりいくら「飲んでからのお楽しみ」といっても、まずいんじゃないかな。おいしい・まずいのまずいじゃなくて、いけないんじゃないかなと思いました。せめて後で専門の先生が「同じ材料でもおいしく作るにはこういうところを」とか、「今、これが足りませんでしたね」とか、視聴者がそれを見て、参考になるワンポイント情報みたいなものをどこかに修正を入れるとか、何かスムージーの食材を最後まで無駄にせず、情報としても生かすという工夫をしてもらいたいなと思いました。それから陶芸教室もやはり中途半端なんですよ。おちょづくりというのなら、釉薬を塗るところまでレポーターがちゃんと体験してこなくちゃいけないと思うんですが、時間がかかるからといって1階のろくろ回しのところだけで預けて終わりでしたし。スタジオに持って帰ってきて小林さんにせっかく「おちょこあげる」と言ったのに「いらない」って言って、それを、いらないから視聴者プレゼントに入れるとい

うのは失礼ですよ。また結局はご本人、飲んでいましたけど。1つ1つの動作に心がこもっていないことが多くて、それが画面を通して伝わってきちゃうのが、非常に残念だなと思いました。それから猫ひたインフォで紹介されていた秦野のバスツアーは非常に興味深くて、これこそまさに情報の地産地消だと思うので、是非こういうのは詳しく掘り下げて取り上げてみたらいいんじゃないかな。プレゼントコーナーの山形のさくらんぼに関しては、私は反対で、何で山形なんだと。情報の地産地消といっているんだから、地元の農家のものでもいいし、漬物屋さんの漬物でもいいし、今川焼きでもいいし、おばあちゃんの作ったお惣菜でもいいし、お惣菜は日持ちしないかもしれないですけど。なんで地産地消のプレゼントにこだわらないのかなと。山形の、それは今季節でおいしいのはわかっていますが、それを詳しく紹介してプレゼントするというのは。ここはやはり神奈川の中の「猫のひたい」で発掘したこれ、とっておきのものというものを、是非プレゼントしてほしいなと思いました。あとは全体として、レポーターの俳優の方とMCの方、世代も違うということですけど、役割分担も不明確。ここはMCが、このターゲットに関してはこういう位置づけで抑えて、20代のもっと若いレポーターはここで行くんだということが、あまりすっきりしていなくて、全体としてみんなでただ騒いじゃっているという印象だったので、そこら辺をもうちょっと整理するといいいんじゃないかなと思いました。以上です。

山田委員長

はい。ありがとうございました。二宮さんお願いします。

二宮委員

悪いところをしゃべるなどという何もしゃべれなくなっちゃうんですけど。3つ話します。全体の印象とMCの小林さんと、情報のことです。まず全体の印象ですが、元気もあって先ほど古矢さんもおっしゃっていましたが、若い主婦層がターゲットということでは、私のような50代の男性にとっては、1時間半は非

常に長く感じました。私も多分何もなく最初から見ていると、途中で番組を変えちゃったなど。1時間半は辛かったなどという感じがしています。それは番組の中で、コーナー、コーナーに引き込まれる部分がありませんでした。レポーターが非常に浅くて、少なくとも誠実・丁寧・真心というのは、私は感じなかったです。その主たる原因は、火曜日の小林さんというMCは、テレビで見ていると、スタジオの生収録というのがあるかもしれませんが、視線がいつも周りに、落ち着きなく動いているんですね。したがって、進行をリードしているというよりも、非常に不安定性を、見ていて感じます。それから若い3人組との絡みの中で、若い3人組なりの軽いトークに、あの方も同じレベルで加わっちゃうんですね。あの方が全体を仕切るという部分がほとんど感じないので、特に今回ののは、見ていて苦痛でした。小林さんばかり言っちゃうんですが、スムーズです。せっかく蜂蜜を使っているのに、蜂蜜の効果が全く出ていなくて、全体の印象は食物をとっても粗末に扱っている印象で、多分國學院の方も、あれを見てがっかりしていると思います。やはり情報として伝えるのに、まずいということを伝えて、何の意味があるのかなということを痛切に見ていて感じました。3つ目です。情報ですけど、テーマの意外性は確かに感じますよね。國學院の蜂蜜ですとか、ヨーデルとか。感じるんですが、まず、たとえば蜂蜜でも伝える内容が浅くて。私が蜂蜜で知りたいのは、たとえばあれだけのものがあるとしたら蜜源がどこにあって、養蜂としてどの程度可能性があるのかということは知りたいですね。ヨーデルは、同好会なんですけど、一人の方がずっと最後まで出ていましたが、やはり同好会というからには同好会としての成果物は見たいですね。そういう素直な知識欲というか、素直に知りたいと思うんですが。そういうふう掘り下げが非常に浅くて、全体的には欲求不満を感じました。最後は吉川さんもおっしゃいましたが、どういう経緯で全

農の山形の佐藤錦を使ったのかなというのが聞きたくて、我々も「旬菜ナビ」
やっていますので、なぜそれを使ったのが疑問でした。最後になりますが、
見ていて「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」と、非常にかぶっている感じがし
て。あれは、その日にとってその日にオンエアするというではありませんが、
少なくとも陶芸などは、数週間ぐらい釉薬をかけたり焼いたりしているので、
「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」と、どう差をつけるのか、情報番組として。
同じようではないかという印象を受けました。長々と話しましたが、以上です。

山田委員長

ありがとうございました。言いたいことを皆さんに全部言われてしまいまして、
いささかさびしい気もいたします。私なりに、もう一度話をさせていただきます。
まず、非常に何か騒々しい番組ということを感じまして。出演者だけが楽しん
でいて、それを見ている人たちはなかなかそっちに入っていない、距離があ
るというように思いました。五大さんのようにスタジオで見るとしたら、それ
なりの一体感はあったかと思いますが、あの番組を見ているのはスタジオだ
けでなく、ほとんどの人がテレビを見て食事をしながら、あるいはくつろぎな
がら見ている人が多いと思います。その騒々しさにチャンネルを変えられてし
まうということが、ちょっとこれはやばいな、という感じがいたしました。それと
番組の内容そのものは、ひとつひとつ本当に興味を持って拝見させていた
だきました。まず國學院大学の蜂蜜ですね。どうして学生たちがそういうもの
の興味を持ってやるのか。これも、やはり吉川さんもお話しされていた
が、なぜそういうのに興味を持ったかと、学生にインタビューしてやるべきだ
なという感じがしました。それと、指導している方がいらっしやいましたね。あ
の人がどういう人なのか、プロフィールが全然紹介なしで、番組が進められて
いってしまったということですね。それと、たまプラーザのあの界限で、どうし
て蜂蜜が作れるのか、これをもうちょっと詳しく取り上げてくれたら、より興味

を持ったなという感じがいたします。その後の陶芸もそうですね。陶芸の責任者の方、中井さんですか。この方のプロフィール、どうしてそういうことをやったのかということも、やはり押さえていた方が良かったと思います。あそこに通っている、ほとんど女性の方でしたが、女性の方にもインタビューをするとか、そういう試みが大事だったかなという気がします。ヨーデルに関しては、ヨーデルをやっている人たちがどういうことで、17歳にときに興味を持ってやっていると話をしていましたが、あそこはもうちょっと突っ込んで。スイスに行ってスイスの自然とヨーデルに魅せられたとか、いろいろあったと思うんです。見ている側は、やはり一番人間に興味が湧いてきます。その人間がどういうものなのかということ、クローズアップしていただけたらいいかなという感じがします。それとスムージーの件、これも二宮さんと吉川さんが話をされていましたが、スムージーは私も暑い盛りには、毎日家内が作って飲まされていますが、これは非常に健康にいいことは、皆さん周知のことだと思います。やるのであれば、出演者に作らせるのはいいですが、後にはちゃんと専門家が出てもらって、こうやって作るという方法や効能なんかもきちんと説明したら、さきほど古矢さんが冒頭に述べていたように、主婦を対象とした番組として、十分成り立つんじゃないかなという気がしました。全体を通して二宮さんは不満が残ったという言い方をなさっていましたが、私はちょっと消化不良だというような感じがいたしましたですね。ひとつひとつ丁寧に番組を作っていく。その丁寧さというのは何かというと、出た方のプロフィール、出演した人へのインタビュー。そういったものを積み重ねていけば、もっと厚みのある番組にできたのではないかなという感じがいたしますね。これからいろいろネタ探しでは、神奈川県内あちこちに情報網を張り巡らせて、いろいろな情報を集めてくるのは大変だと思いますが、是非そういう神奈川県の知られざる面を、是非この番組

で継続していただきたいと思います。あと言い足りないことがありましたら、委員の皆さんの方から話していただけますか。それが終わりましたら古矢さんの方から、反論があれば是非いただければと思います。

伊藤委員

取り上げているレポートの題材についてです。皆さんと回がずれているようで大変お恥ずかしいんですが、僕が見たときは蔵で作っている箒だとか、採石場まで行ったりとか、結構渋いものが多かったんですよ。改めて言うとりポーターたちのモチーフがかみ合っていないというのが、最初はそれが面白いと思ったんですけど、なぜそれが選ばれるのか。投書から来ているから選ばれているのか。選ばれる、レポートするターゲットの選ばれ方を知りたいのと、視聴者から、もし「これを扱ってほしい」というときの「こういうのは駄目」「こういうのはあります」というのがあれば、参考までに教えてください。

山田委員長

それと、もう一つよろしいですか。この番組の中で、私なりに一番しまっていたなというのはtvkニュースでした。女性アナウンサーがきりっとしたスタイルでニュースを読んでいて、番組の中であそこだけがきりっとしました。あそこの中で、桜美林大学の学生さんのチアリーダーの表彰がありましたよね。市長にあいさつに行くと。あれはやはり、ニュースの中で実演をする映像を流すべきだったんじゃないですかね。言葉で説明していましたが、チアリーダーで上に乗ったり、肩に担いだりとかするんじゃなくて、平面で動くっていうようなことをアナウンサーの方が説明していましたが、それはやはり、実際に絵で、映像で見せるべきだったかなという感じがしました。そんなことです。これもあとで説明していただければ有難いです。他にございませんか、何か追加のコメントなど。ないようでしたら古矢さんの方からいろいろ。

古矢プロデューサー はい。まず最初にご意見をいただいたリポーターについてです。出演者全員なんですけど、MC もリポーターも基本的には俳優を経験している、俳優がメ

インの方で、生の情報番組、しゃべるような仕事、レポートする仕事は、皆この番組が初めての方々になります。彼らは彼らなりに頑張っているんですが、ただ言葉づかいとか回し方とか、まだ勉強しているところがありまして、特にリポーターについては、若いというところもありまして、言葉遣いが確かに悪かったり、取材が浅かったりということはあるので。ただ番組としては、それを「温かい目で」といったらちょっとあれかもしれないんですが視聴者、主婦の方からはメールとかファクスでレポートの感想を毎回送ってもらっています。それを番組の中で読んで、あそこの言葉遣いが悪かったとか、そういったものも番組の中で紹介して、彼らがリポーターとして成長していく過程も、この番組では一つの売りとして見せていけたらなということもあって。ディレクターと一緒にいるんですが、敢えてそのまま編集して、普段の情報番組であつたら使わないようなところも、敢えてカットせずにそのまま今の彼らの力というか、そういうところは使っていたりします。そこが普段の情報番組に比べると、彼らができない、言葉遣いが悪いと受け取られてしまうところなのかなと思いますが。そこがひとつの番組としては、「今の彼らはこういう状態ですけど、これから成長していく」のを、温かく主婦の方に見守っていただけたらなというのが、ひとつ番組の意図として、そういったところもあります。あと、ヨーデル同好会のところは、番組とは関係なくなってしまうんですが、彼は、取材をしたのが舞岡公園で、そこで住んでいるわけではなく、取材したのが広い敷地ということになります。ヨーデル同好会とは言いつつも、番組の中でも触れたんですが、会員が入ってもすぐ辞めてしまうと。同好会というのは名ばかりで、実際は代表の方が一人でやっている。ということで画面上は一人でやっている。リポーターもそこには触れているんですが、確かに丁寧にやってもよかったのかなと思います。スムージーのところは、おっしゃるご意見はごも

つともだなと思うので、今後は改善できるところは改善しつつ、いい情報番組として、情報性のところも含めていいコーナーにしていければと思います。

MC の小林もスムージーは彼が実際に自分で考えていて、裏にはフードコーディネーターさんがいて、レシピを考えていてというのが一般的なんですが、彼は本当に自分で考えていて、なるべく地元の素材ですね。今回でいうと蜂蜜、それから視聴者からリクエストの多かったしそ、大いに使ってほしいというのを受けて、しそというテーマで、お題で彼ががっちり作るということで、成功するときは成功する、失敗するときは失敗というか、味としておいしくなかった。

栄養としては、最初に小林がしその効果とか蜂蜜の効果とか、口頭では説明はしていたんですが、見方によっては、味がまずいというところで捨ててしまふのかなというところで、無駄になるということをもった視聴者の方もいらっしゃったと思います。今後、配慮が必要かなと思います。あとスタジオの方に、しその苦手な方に、敢えてその人に試飲をさせていたんですが、彼の意図としては「しそが苦手な人でも飲めるんですよ」ということを伝えたかったというところがあったので、敢えてそういった人に飲ませたということ、後でおっしゃっていました。プレゼントがなぜ地産地消の番組を言いつつ、山形の佐藤錦なのか。これは前の番組から引き続いているところなんですが、プレゼントの提供をいただいている各社様から、どうしても自前で毎日帯で集めるというのは、正直つらいところがありまして、いろんなところから提供をいただいている中で、全国の季節ものの食材がやはり出てきます。そういうところで、その日が旬のところ、山形の佐藤錦でした。必ずしも県外のそういったものだけではなく、回によっては神奈川の食材もやっていきますので、番組としては今後意識して、取材先のもを視聴者プレゼントとして、神奈川の地産地消をプレゼントとしてやっていくのを今後検討していきたいと思いました。あと、取材

のネタの選び方なんです、基本的にはまず視聴者が、興味のターゲットは30代から40代の主婦と。そういった方々に向けて、まず興味を持っていただけの内容なのかと。ただ、グルメや美容だけではキー局でもできる情報になりますので、キー局でも神奈川の情報、たとえば「アド街ック天国」とかでも、しっかりエリアの情報をやっていますので、そういったキー局のところではなかなか扱えない、神奈川のローカル局だからこそ扱えるような情報というのを、ひとつ選ぶ基準にしています。あとは季節性ですね。生放送になりますので、例えば蜂蜜は6月が採蜜の時期ですので、蜂蜜というテーマ。ただ養蜂場は神奈川県にもたくさんあるんですが、その中でも普通の養蜂場ではなく、その地域の学生が養蜂に取り組んでいるサークルというところの視点で、養蜂であればネタを選んだりしています。ただ、いろいろな方からご意見を頂きましたが、やはり取材の浅かった部分は否めないと思いますので、そこは今後改善していきたいと思っております。あと、視聴者からのネタというもおかげ様でどんどん増えていまして。たとえば今日放送した愛川町の箒については、視聴者の方から「愛川町に来ていないから、来てほしい」というリクエストがあって、愛川町でなかなか主婦の方がご興味があるような掃除ということで、箒というものがありましたので、それをご紹介します。あと、ヨーデルも視聴者からのリクエストで、「何か面白い習い事はありますか」というところで、面白いところでヨーデルを紹介しました。基本的には視聴者からのリクエストがありつつ、番組スタッフでの情報性だったり、季節的なものだったりということを基準に選びます。ということで、漏れはないでしょうか。

山田委員長

はい、古矢さんからいろいろと細かく丁寧に説明をしていただきましたが、これについて何か。

林委員

番組サポーターは何人いらっしゃいますか。

古矢プロデューサー 3,200人です。

林委員 3,000人もいらっしゃるんですか。わかりました。

山田委員長 それでは時間もちょっと押し迫っていますし、始まったばかりですし、いろいろこれから直していかなきゃならない。今日も皆さんから、かなり辛口の意見が出ましたが、ひとつこれにめげずに番組を。期待しています。必ずいい番組になると思います。さっきも「あっぱれ！KANAGAWA」と出ましたが、「あっぱれ！KANAGAWA」とはちょっとニュアンスが違いますので。あれはあれ、こっちはこっちで、ひとつ頑張っていたきたいと思います。それでは3番目のその他報告事項に移りたいと思います。

玉村編成部長 はい。視聴者対応についてです。電子メールと電話の主なものと件数です。今回は非常に多くて電子メールは1万件を超えております。電話の方は1千件弱。それぞれの番組の比率に関しましては、最後のページに出しております。相変わらず「あっぱれ！KANAGAWA」は非常に多くて、4千件以上ありますが、今ご覧いただきました「猫のひたいほどワイド」につきましても3千件弱ありまして、プレゼントへの応募等も含めていただいておりますので、ある種、期待をもってご覧いただいているのかなと、私どもも思っております。それぞれの意見につきましては、例えば「旬菜ナビ」につきましては、今回は相模線の旅ということで、沿線のいくつかのところを巡ったりしていましたし、神奈川県広報番組「カナフル TV」につきましては、ちょっと変わった鎌倉を探訪するというので、フクロウカフェみたいなどころへ行って、非常に印象的なレポートをやっていたりとか、そういうところの意見を頂いたりしています。次のページの「サタミンエイト」というのは新しい番組で、これはまだ皆さんにご批評を賜っておりませんが、次長課長の井上さんの MC ぶりが、ちょっと、それこそ、通常の番組の MC とは少し違った感じのノリでやっておりますので、これ

も機会がありましたらご覧いただきたいと思っておりますが、そういったことに対する、わりと肯定的な意見を頂いたりしております。それからベルマーレの番組、「あっぱれ！KANAGAWA」に対するお子さんだった方からのご意見とか、ヘビーメタルの専門番組「ROCK CITY」に関する30代の男性から、絶賛する意見。こういったものを今回ご紹介させていただきました。以上です。

山田委員長 はい、ありがとうございました。事務局から視聴者対応について説明がありましたが、これについて何かご意見等ございますか。よろしいですか。それでは前回の番組審議会の議事報告に移りたいと思います。

議 事 報 告

山田委員長 ありがとうございます。本日の議題はこれですべて終了いたしました。事務局の方から連絡事項がありましたらお願いします。

玉村編成部長 次回ですが、7月19日火曜日に予定をいたしております。今回は半期に一度ということで懇親会を行わせていただきますので、いつもの2時ではなく、4時からスタートということでご参集を頂きますよう、よろしく願いいたします。視聴合評につきましては、昨年にも実はご覧いただきました「LOVEかわさき」、川崎市の広報番組でございます。この4月に出演者が一新いたしましたので、是非昨年ご覧いただいたものとの比較も含めて、改めてご批評を賜りたいと思いたしましたので、この番組を選択させていただきました。よろしく願いいたします。7月9日土曜日のものをご覧いただければ幸いです。以上ですので、先ほど山田先生からもお話がありました。

山田委員長 それでは今日はもう、あと時間もないんですが、五大さんと私の方からお願いがございますので、まず五大さんの方から。

五大委員 今年、横浜発をやり続けてきて、20周年を迎えました「横浜ローザ」です。20年という歳月。この番審がいつも応援してくださっていただき、ありがとうございます。

います。今年は20周年ということで、「響け！ローザへの思い」ということで、横浜在住でメリーさんの歌を歌ったり、横浜の思いを歌っているダ・カーポさん、テミヤンさん、日野美歌さん、山崎ハコさん、美山容子さん、そして私とバイオリンのセッションで、ローザの叫びを伝えたいと思っております。このように、横浜にこだわり神奈川にこだわり、やり続けてこられたのも市民の人たち、マスコミの人たち、企業の人たちと一緒に作ってきた横浜スタイルだと思っています。私はニューヨークで、そこでニューヨークタイムスを持ってきていますが、15歳の少女が「ローザは私のヒーローとなりました。どんな困難、悲運が来ても、立ち上がり、また生きた」。その言葉を宿題として、先日は鴨居中学で500人の前で横浜大空襲の話をしました。明日はY校の高校生と語り合います。30日はこのtvkの会議室を借りて、立教大学の砂川ゼミの若者たちと語り合います。7月には横浜国大に私が出向いて、若者たちと話します。私の宿題は、自分から若者たちの中に入り込んで、それがいつかローザに結びつくことを願って活動しています。今年の20周年、ロコミでいいので、是非若い人たちに、皆さん伝えてください。報告とお願いです。ありがとうございます。

山田委員長

続きまして、東日本大震災の取材が縁で、現在執筆活動の傍ら防災をテーマとしたNPO法人の仕事もしております。今日はちょっと私が作ったもので、署名原稿の他に3本ほど原稿も書いています。今回の特集は「防災教育」ということで、ご存知のように宮城県石巻、大川小学校ではたくさんの児童が亡くなっています。一方でたとえば岩手県釜石では児童が助かっている。そういうことから、将来ある子どもたちのために防災教育がとても大事だということを、こちらのチラシでは訴えて、7月9日に講演会とシンポジウムを計画しております。是非皆さん方にも参加していただき、聴いていただきたいなど

思っております。これは無料ですので、ひとつよろしくご友人、知人の方にもお話していただければと思います。いつも伊藤さんや五大さんの高尚な芸術活動の紹介なので、非常に辛気臭い面もありますが、第2回、前回は五大さんにも参加していただいて講演をお願いしておりますので、ひとつそういうことでよろしく願いいたします。個人的なことですみませんが、今日はチャンス頂きまして、ありがとうございました。

玉村編成部長

山田先生、こちらですね。

山田委員長

そうです。はい、よろしく願いいたします。今日の番組審議委員会はこれですべて終了いたしました。何か他に。それでは、ないようでしたら今日はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。